

WebOTX アプリケーション開発ガイド

WebOTX アプリケーション開発ガイド

バージョン: 8.1

版数: 初版

リリース: 2008 年 7 月

Copyright (C) 1998 - 2008 NEC Corporation. All rights reserved.

目次

1. 初期設定.....	3
1.1. Developer's Studio	3
1.1.1. Developer's Studioの起動	3
1.1.2. 環境設定	4
1.2. テスト用サーバ	7
1.2.1. デバッグ用ポートの設定.....	7
1.3. WebOTX ランタイムの設定.....	7

1. 初期設定

本章では、WebOTX Developer に含まれる Developer's Studio およびテスト用サーバ初期設定について説明します。

1.1. Developer's Studio

Developer's Studio は、初回起動時にインストールされた環境をチェックし、初期設定を自動的に行います。そのため、手動で行わなければならない初期設定はありませんが、インストールしたマシンの環境によっては、初期設定を見直す必要がある場合があります。そこで、ここでは Developer's Studio の初回起動時に行っている設定について紹介します。初回起動直後に初期設定が正常に行われているか確認するためにお役立てください。

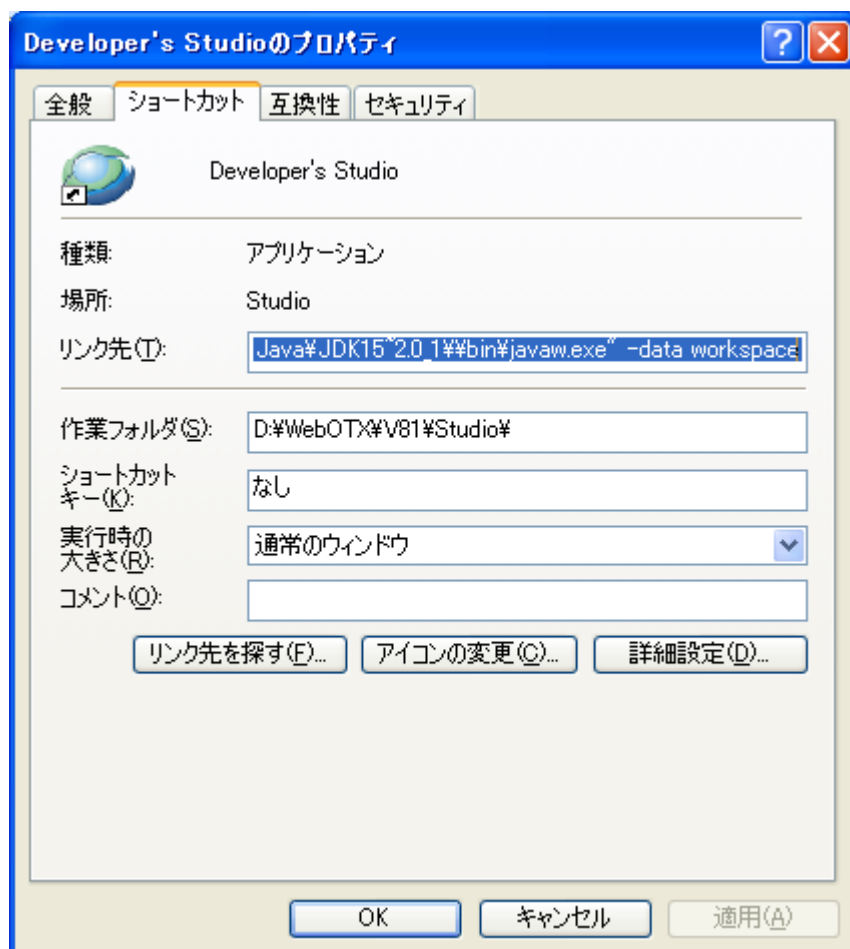
1.1.1. Developer's Studio の起動

Developer's Studio の起動方法と起動時のオプションについて記述します。

「スタート」メニューからの起動

Developer's Studio の起動は、「スタート」→「すべてのプログラム」→「WebOTX」→「Developer's Studio」メニューを選択します。

起動時のオプションを指定する場合には、上記メニューを右クリックして「プロパティ」を選択します。



上図の「リンク先」の値を変更します。

例:

```
"C:\Program Files\NEC\WebOTX\Studio\eclipse.exe" -vm "C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_15\bin\javaw.exe" -data workspace -vmargs -mx768m
```

workspace の切り替え

プロジェクトを保存している場所を workspace と呼び、workspace を切り替えることで別のハードディスクの記憶領域で作業を行います。

起動時の“-data”オプションを変更することで、workspace を切り替えることができます。

例:

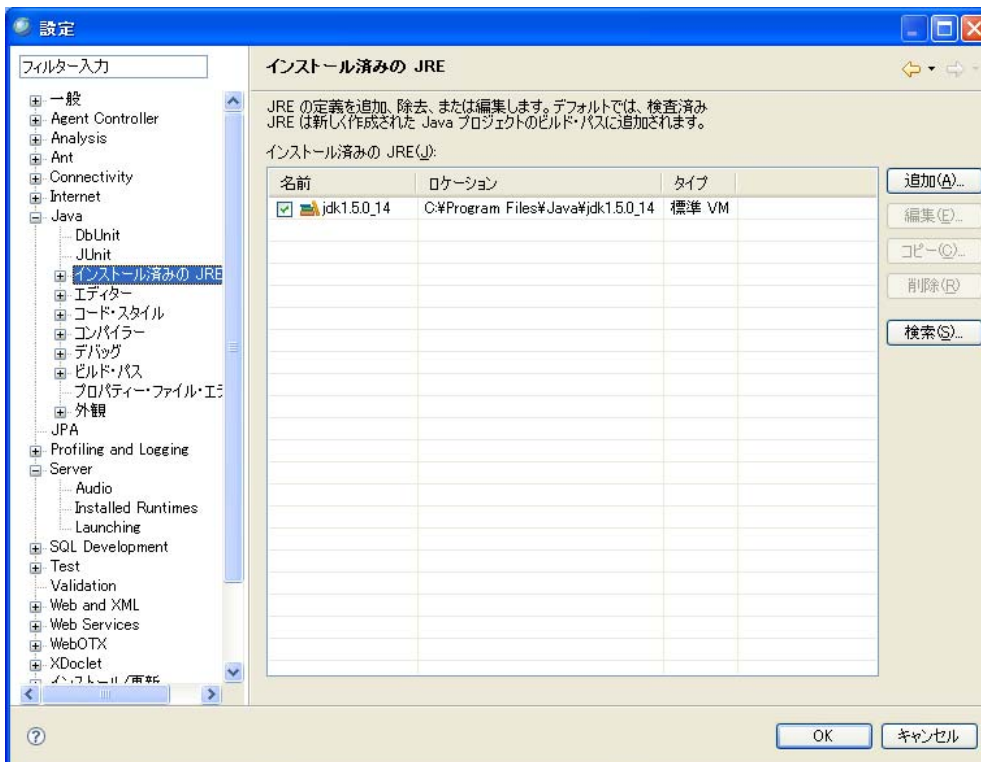
```
"C:\WebOTX\Studio\eclipse.exe" -vm "C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_15\bin\javaw.exe" -data "C:\TMP\workspace"
```

1.1.2.環境設定

メニューの **ウインドウ | 設定** で表示されるダイアログで次の設定を確認してください。

Java - インストール済み JRE

J2SE 5.0 SDK がリストに表示されているとともに、チェックが入っていることを確認してください。それ以外のバージョン、あるいは Runtime のみでの動作はサポートしていません。



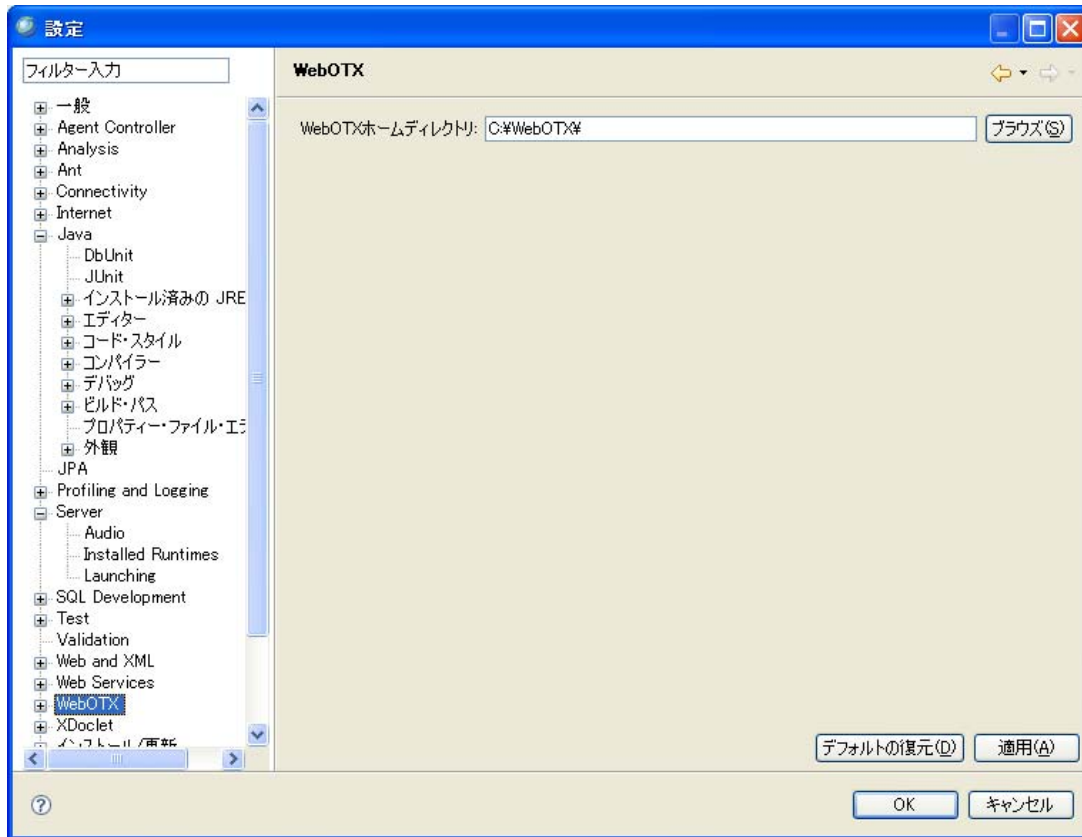
複数の J2SE が混在する場合、有効にしたいものにチェックします。また、意図した J2SE がリストに表示されていない場合、**[追加]** ボタンを押し、J2SE のインストールフォルダを指定してください。



Developer's Studio は J2SE SDK の Java ソースコンパイル機能を利用しているため、ここで Runtime を指定しても動作しません。

WebOTX

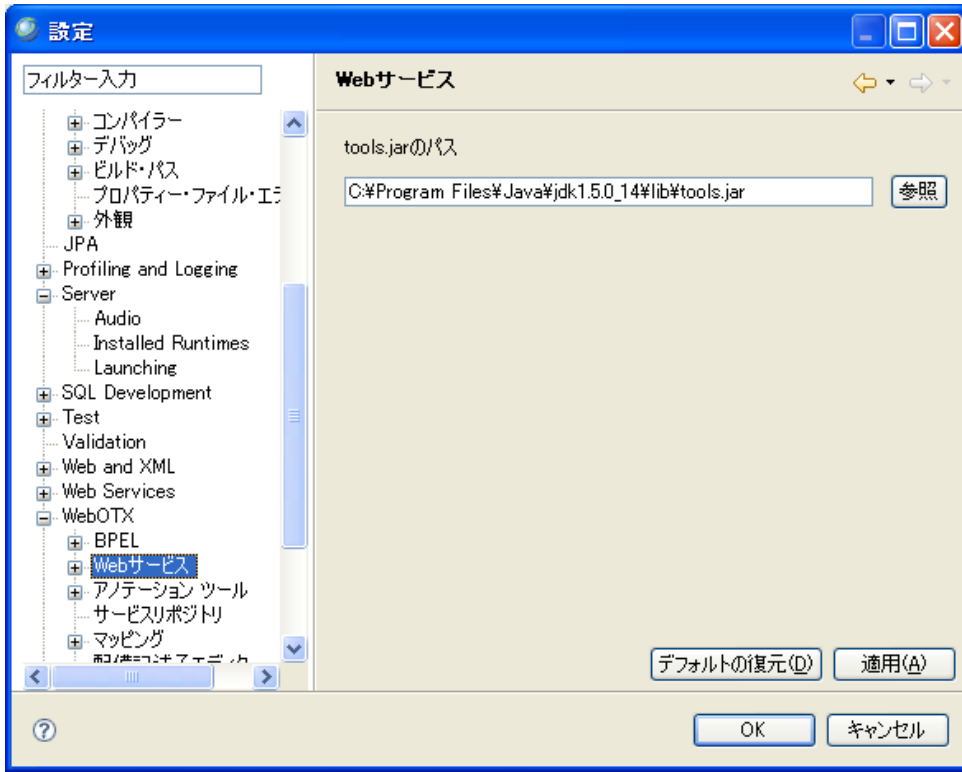
WebOTX ホームディレクトリがインストールされている WebOTX のルートフォルダになっていることを確認してください。WebOTX のルートフォルダがきちんと設定されていない場合は、絶対パスで指定しなおしてください。



Developer's Studio のルートフォルダではありません。

WebOTX - Web サービス

J2SE 5.0 SDK の lib フォルダにある **tools.jar** が設定されていることを確認してください。tools.jar のパスがきちんと設定されていない場合は、絶対パスで指定しなおしてください。



1.2.テスト用サーバ

テスト用サーバの初期設定はインストール時に自動的に行われます。そのため、手動で行わなければならない初期設定はありませんが、インストールしたマシンの環境によっては、初期設定を見直す必要がある場合があります。そこで、ここではテスト用サーバのインストール時に行っている設定について紹介します。初期設定が正常に行われているか確認するためにお役立てください。

1.2.1.デバッグ用ポートの設定

テスト用サーバには、あらかじめデバッグ用のポート「4004」が設定されており、いつでもデバッグを開始できるようになっています。もし、このポートを閉じる必要がある場合は、運用管理コマンドを使って設定を変更します。

順序	手順
1	Windows のスタートボタンから、 プログラム WebOTX 運用管理コマンド を実行し、運用管理コマンドを起動します。「otxadmin> 」というプロンプトが表示されることを確認してください。
2	次のコマンドを実行してテスト用のドメインにログインします。 <code>otxadmin> login --port 6212 --user admin --password adminadmin</code>
3	次のコマンドを実行してデバッグ設定を解除します。 <code>otxadmin> set server.java-config.debug-enabled="false"</code>

MEMO

デバッグ用ポートのポート番号のみを変更することはできません。

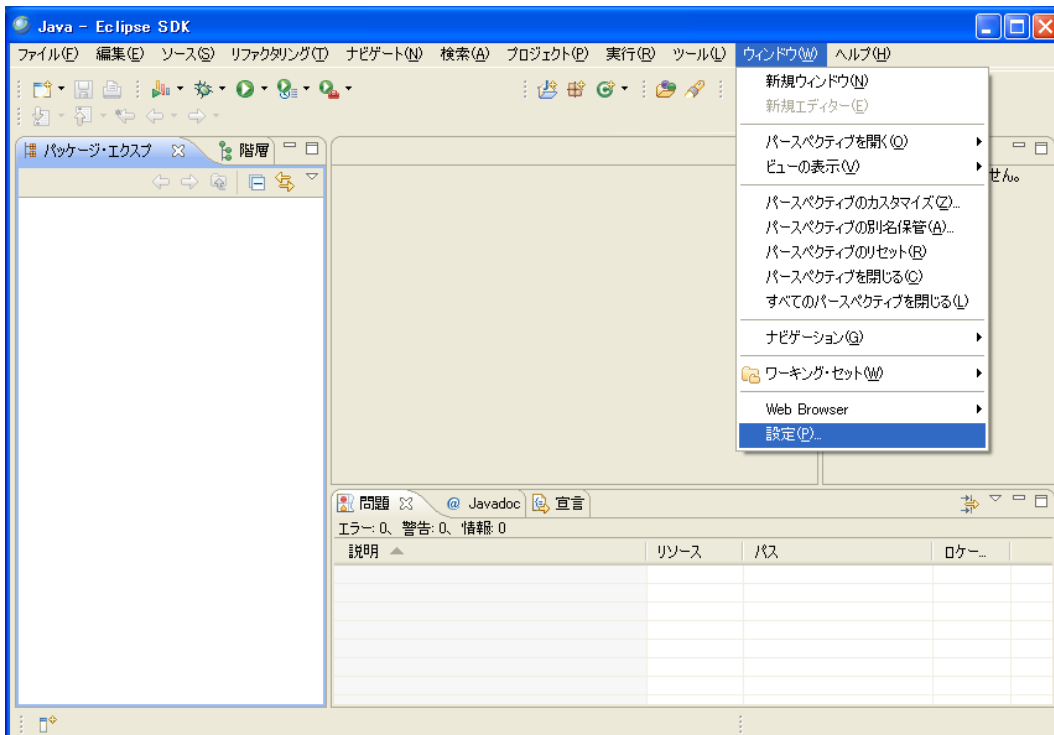
MEMO

このユーザ、パスワードは初期値です。変更した場合には、その値を使用してください。

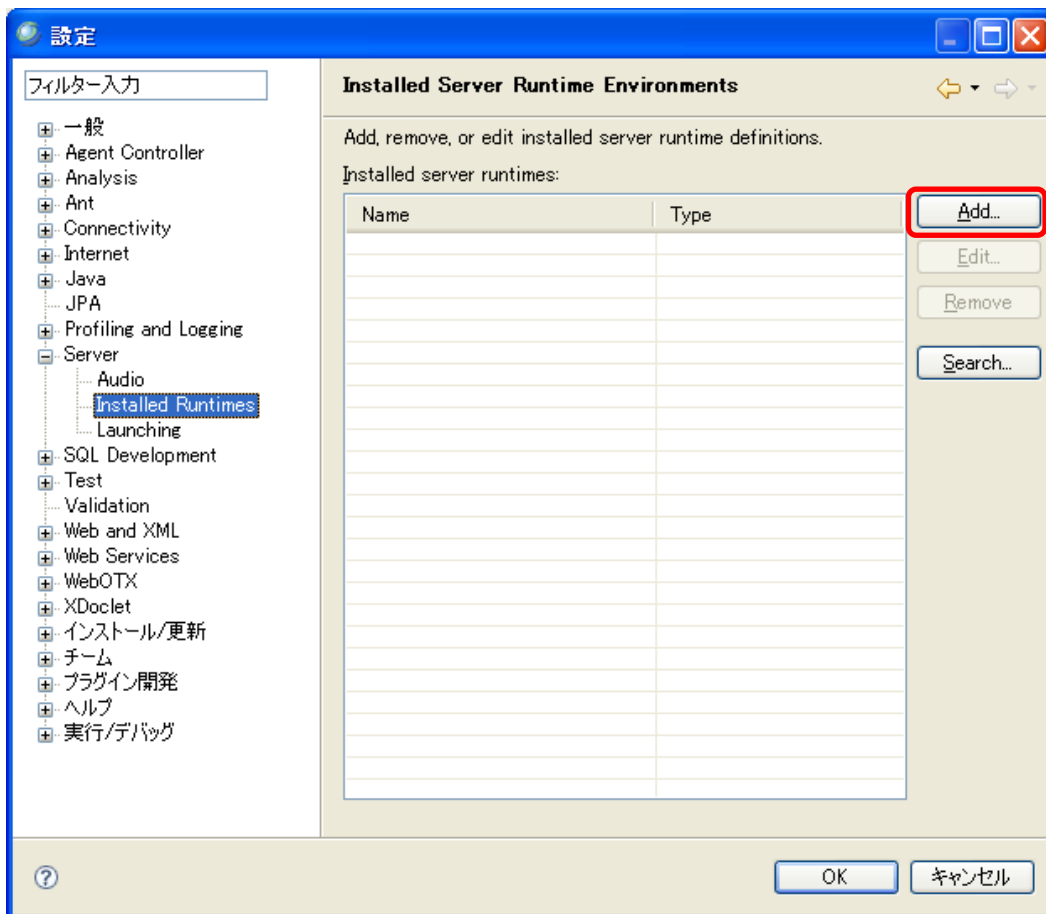
1.3.WebOTX ランタイムの設定

Web Tools Platform (WTP と呼びます) を利用する場合は、以下に示す初期設定の準備が必要です。

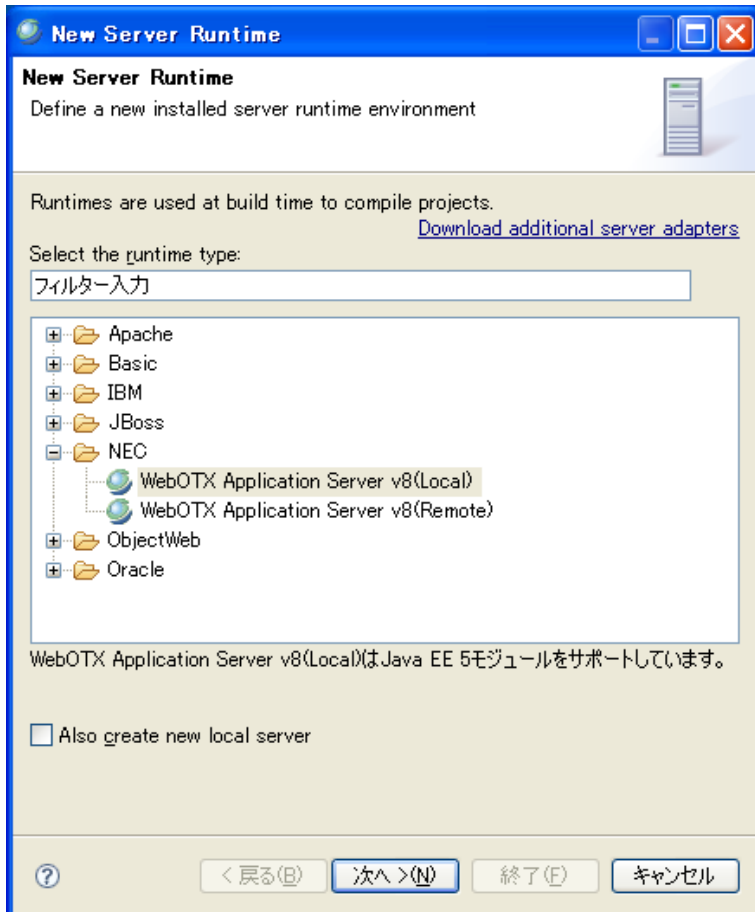
ウィンドウ | 設定 を選択します。



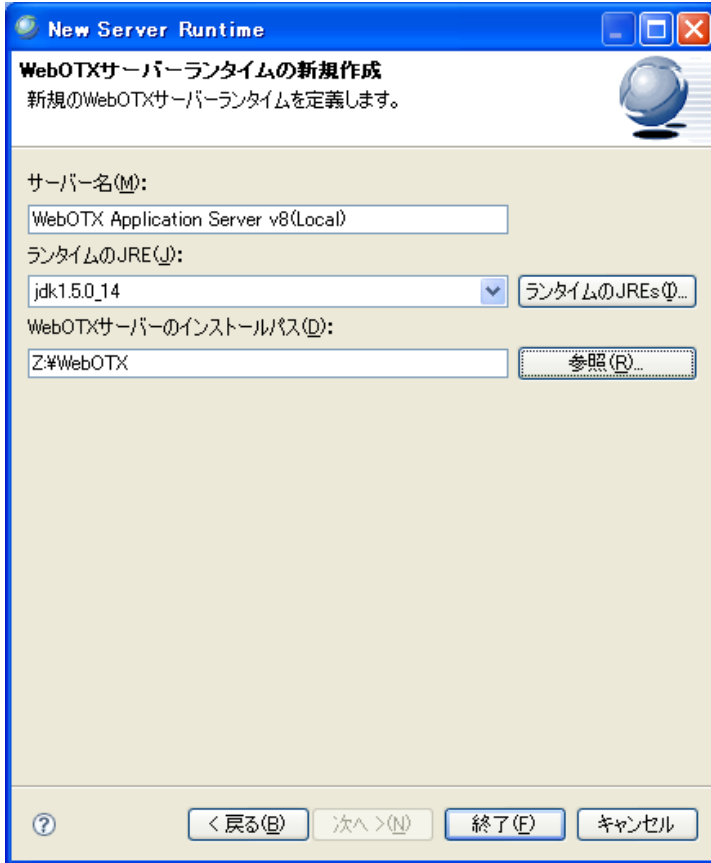
サーバ | インストール済みランタイムを選択し、Add(追加)ボタンを押します。



「WebOTX Local Server V8」を選択します。



WebOTX サーバのインストールパスで、WebOTX インストールパスを指定します。



一覧に、WebOTX Local Server V8 が追加されます。OK ボタンを押します。

